

出エジプト記 17章 1-7節

ローマの信徒への手紙 5章 1-11節

ヨハネによる福音書 4章 5-42節

大齋節も第3主日となりました。本日の福音書は、先週に続きヨハネ福音書にあるお話です。新しい聖書日課も以前と同じ箇所ですが、《》に入って省略可となっていた部分が日課として指定され、全体が長くなりました。それでも4章の1節から4節は省略されています。

ひとつのお話が長いというのは、ヨハネ福音書の特徴の一つです。また、同じ言葉を用いながらも、登場人物の間での意味の違い、そこから会話のずれも特徴の一つです。先週のイエス様とニコデモとのお話にもそれがあり、本日の箇所にもあります。本日の箇所では、「水」(4:7-15)、「礼拝」(4:16-20)、「キリスト」(4:21-26)、そして「食べ物」(4:27-38)の4つです。もし省略されている1節から4節も含めれば「洗礼」も入って5つでしょう。

「水」、「礼拝」、「キリスト」は、イエス様とサマリアの女との間での意味のずれですが、「食べ物」は、イエス様と弟子たちとの間です。これらの意味のずれは、お話の中の登場人物における出来事であり、お話の中で意味の一致に伴う解決へと展開するのですが、読者は対話と展開から大切な意味を知ることとなります。

しかし、すでにキリスト者である人は、イエス様の意味する「水」が、井戸で汲む物質的な意味での水ではないこと、「礼拝」がそれまでの律法に基づいた礼拝ではないこと、「キリスト」が『聖書(旧約、続)』の意味とは異なること、「食べ物」とはイエス様ご自身がまことの霊的な食べ物であることをわかっていると思います。しかし、教会の信仰にまだ立っていない人、たとえばその人が『聖書(旧約、続編)』を深く読んできた人であったとしても、この会話のずれに混乱すると思います。ただし、最後の食べ物に関しては、「弟子」と呼ばれる人たちも、「**私には、あなたがたの知らない食べ物がある**」(4:32)と言われ、「**誰かが食べ物を持って来たのだろうか**」とわかっていないように描かれていますから、すでに教会の信徒となっている人への確認の意味もあるかもしれません。

ただし、「キリスト」に関しては、現代にわたしたちには、ヨハネ福音書の著者が想定していない意味のずれがあります。すなわち、ギリシア語で『聖書(旧約、続編、新約)』を読んでいる人と、翻訳された『聖書』を読んでいる人と、別な意味でのずれがあるのです。「**キリストと呼ばれるメシア**」(4:25)という表現は、原文で読むと非常に珍しい表現です。原文で「メシア」という単語が用いられているからです。そもそも、このヘブライ語の「メシア」のギリシア語訳が「キリスト」なのですが、新約聖書にはこの「メシア」という言葉の用例は、二か所しかありません。ここと1章41節だけです。

以前にもお話したことがあります。新共同訳以降、日本語訳聖書の新約部分において、旧約的な意味での「キリスト」は「メシア」と訳し、イエス様の意味での「キリスト」は、「キリスト」と訳し分けることとなりました。それでは『聖書(旧約、続編)』に「メシア」という訳語が用いられているかというところではなく、「油注がれた者」という訳語になっています。日本語の『聖書』は、読者が混乱を起こさないように、「油注がれた者」、「メシア」、「キリスト」と訳し分けてあるのです。それでは、ヨハネ福音書の著者が想定している、ギリシア語で通して読んでいる人にとってどうかということ、それらはすべて「キリスト」です。その意味で「キリスト」に関して言えば、ヨハネ福音書の著者が想定しているずれと、現代の読者であるわたしたちが感じるずれとは、ずれがあるのです。

「水」、「礼拝」、「キリスト」、「食べ物」、一つひとつを取り上げて説明しようとしても、とても一つの礼拝の説教では終わらないと思います。もちろん、それぞれについて深く学ぶこと、ことにヨハネ福音書が示そうとする意味を知ることは大切です。しかし、それがヨハネ福音書の目的ではありません。ヨハネ福音書の目的は、「知る」ことではなく、「信じる」ことであるからです。

それゆえ5節から始まる本日の長いお話（実際は1節からですが）の目的は、最後の39節から42節にあるといえます。そこには39節の「信じた」（町の多くのサマリア人たち）、41節の「信じた」（さらに多くの人たち）、42節の「信じる（信じている）」（わたしたち）と、「信じる」という意味の言葉が、「信じた、信じた、信じている」と三回繰り返されています。ことに、三回繰り返されているだけではなく、過去、過去、現在となっており、今信じていることの大切さを強調しています。ここでもヨハネ福音書の最大の特徴、あるいは目的と言える事柄が現れています。それは、イエス様を信じること、すなわち福音書の終わりの方に書かれている、「**これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じて、イエスの名によって命を得るため**」(20:31)です。本日の箇所にある「水」、「礼拝」、「キリスト」、「食べ物」、「(洗礼)」、これらは、この信仰に至るための「しるし」にすぎません。「しるし」を理解すること自体が目的ではないのです。わたしたちの目的は、信じるにほかならないのです。

21世紀にはいり、多発する自然災害による悲しいニュースのほか、地球環境全体の悪化に関するニュース、そして近年は多くの戦いのニュースが聞こえてきます。戦いのニュースにおいては、簡単に一つの立場に立って何かを語ることはできません。しかし、わたしたちは、イエス様を信じることを通して、いつの日かすべての人が戦うことの無意味さを学ぶことを目指したいと思います。そして、戦いや、自然災害など、あるいは人生における様々な悲しみも、それがすべてではないことを知り、イエス様を信じることを通して、救いと慰めを受けることを目指したいと思います。そのすべての源であるイエス様の復活を祝う準備をこれからも続けたいと思います。